

第4回 近江大橋の維持管理の あり方を考える検討会

平成24年11月14日

滋賀県土木交通部道路課
滋賀県道路公社

本日の議事

- 1 第3回検討会の主な意見の確認について
- 2 提言内容の検討
「近江大橋の将来の維持管理の財源確保に関すること」
- 3 提言内容の検討
「無料化による経済波及効果や周辺道路への影響の把握に関すること」

1. 第3回検討会の主な意見の確認

事実確認の整理

- ・今までは壊れたらもう一度作り直すと言えた。
- ・日本はこれから耐久年数を超えるインフラを一気に抱えることになる。
- ・道路特定財源は一般財源となった。
- ・自動車の燃費の向上、ガソリン車以外の車の増加で燃料税が減少している。
- ・料金徴収期限を迎えた道路が無料化されると、税に基づく補修になる。
- ・地方管理の道路は国管理の道路よりも管理延長が長い。
- ・道路で料金をとる制度は、道路建設のための財源とされてきた。
- ・税収が減少することで道路に配分されるお金も減少してくる。

事実確認の整理

- ・財源が乏しくなると、消費税をあげないといけなくなる。
- ・交通量を管理するための新たな料金を徴収する仕組みが世界的にも注目されてきている(ロードプライシング)。
- ・維持管理のための新たな料金を徴収する方法も検討されてきている。

主な意見(維持管理の財源確保について)

(2) 課題

- ・これまでとは違った状況で新しい施設を作らないといけない。
- ・国との交渉は厳しくなる中で、県の財源の独立性をどう保つか。
- ・道路財源は安定して供給されるのか。

(3) 対策として

- ・継続的に道路が機能を果たしながら、負担をある程度分散させる必要がある。

(財源の確保について)

- ・維持管理の費用についての財源を別途貯蓄するなどして確保しないといけない。
- ・県の財源として、県債による借入や投資、ふるさと納税等を考えなくてはならない。

主な意見(維持管理の財源確保について)

(現行法:維持管理有料道路制度について)

- ・今後、近江大橋と同じような道路において、全国で多くの事例がでてくる。
- ・維持管理のお金がある場合に対して、適用のハードルを下げてほしい。
- ・近江大橋は滋賀県の1 / 6の面積を占める琵琶湖を横断する橋梁で、それが果たしている機能は橋の構造から評価できるものとは異なる。
- ・今の制度のままであれば、償還したら無料になって、その後建設を有料で行い、また無料・・・となる。このやり方が合理的なのかを考えなければいけない。

主な意見(維持管理の財源確保について)

(新しい制度の可能性について)

- ・交通量の多いところで無料開放すると大混乱が起こることを考慮する必要がある。
- ・有料道路とは本来こうあるべきという概念を変えていく必要がある。
- ・交通流動の最適化に基づいた法制度を考えるべき。

(4) 検討会のまとめ

- ・地方における維持管理のためのシステムの構築が大切になっている。
- ・新たな維持管理の仕組みを作ってほしい。

主な意見(無料化社会実験について)

前提条件:無料開放か維持管理のために有料を続けるか見極めるために社会実験をする予定であったが、現時点で無料開放を前提に議論しなければならない。

(1)無料化社会実験の必要性

- ・無料化したらどれだけ交通量が変わるのかなどを調査するために実験を行うが、約1.8億円/月をかけた実験は必要ないと思う。
- ・社会実験をして無料化したらこんなに混雑して困るから有料という選択肢もあると思ったが、無料開放を前提にするならば意味がない。
- ・交通量シミュレーションでは出てこないような効果が出てくるかもしれないので実施する意味があるが、その効果が費用に見合うかは疑問である。
- ・短期間で対応できる対策であれば、開放した後でもよい。

主な意見(無料化社会実験について)

(予測の方法【社会実験の代替案】)

- ・交通量が増えることによる影響など、ある程度時間を要するものは先に検討しておく必要がある。
- ・近江大橋が無料開放された後の近い将来の交通の変動はシミュレーションで概ね把握は可能である。

(2) 検討会のまとめ

- ・社会実験は行わず、交通量の変化をそれに変わるもので検討しておく必要はある。

2. 提言内容の検討

「近江大橋の将来の維持管理の財源確保について」

資料3 1ページを参照下さい。

3 . 提言内容の検討

**「無料化による経済波及効果や
周辺道路への影響の把握について」**

資料3 2ページを参照下さい。

**貴重なご議論を賜り、
ありがとうございました。**